

レナフレンド

アクリルゴム系防水形複層塗材

特 長

レナフレンドは、アクリルゴム系エマルジョンをベースとした弾性吹付タイルです。塗膜の柔軟性が大きいため、下地のひび割れに対し優れた追従性を示します。従来の吹付タイルと比較して防水性、密着性、耐候性などいずれの点においても優れています。仕上げには吹放し仕上げ、凸部処理仕上げ、ゆず肌状ローラー仕上げ、小粒仕上げの4種類があります。

1. 下地表面の微細なひび割れに対して優れた追従性を示し、雨水の浸入を防ぎます。
2. 下地への付着力が良く、長期に亘って付着力の低下を生じません。

用 途

- ① 住宅・マンションなどの内外装
- ② 店舗・事務所・工場・倉庫などの内外装
- ③ 学校など公共施設の内外装

(軽量モルタル、ALCパネル、高断熱型窯業系サイディング及び、発泡ウレタンなどを使用した高断熱型外壁に塗装する場合は、蓄熱されたり、水の影響や下地の状態、塗装時の環境など、いくつかの条件が重なることでパネルの変形や塗膜のふくれ、はがれなどを生じることがあります。ご採用にあたっては、最寄りの各営業所にご相談下さい。)

荷 姿

レナフレンド主材 20kg 石油缶
(標準塗坪: 吹放し・凸部処理仕上げ 7 ~ 9m²/缶、
小粒仕上げ 8 ~ 10m²/缶)

レナフレンドローラー用主材 20kg 石油缶
(標準塗坪: ゆず肌状ローラー仕上げ 8 ~ 10m²/缶)

レナフレンド下塗材 (SK水性弾性シーラー〈クリアー・ホワイト〉) 15kg 石油缶
(標準塗坪: 115 ~ 150m²/缶)

レナフレンド上塗材 (SK水性ELコート〈艶有り、半艶、3分艶〉) 16kg 石油缶
(標準塗坪: 45 ~ 53m²/缶)

レナフレンド上塗材 (水性弾性セラミシリコン〈艶有り、半艶、3分艶〉) 16kg 石油缶
(標準塗坪: 45 ~ 53m²/缶)

危険情報と安全対策

製品の取り扱いには、それぞれの製品安全データシート(MSDS)に従って下さい。特に、印のついている製品は溶剤形のため、「危険情報と安全対策」をよくお読み下さい。

性能試験成績表

JIS A 6909 建築用仕上塗材 防水形複層塗材Eによる物性試験

試験項目	結果	規 定
低温安定性	合格	塊がなく組成物の分離・凝集がないこと。
初期乾燥によるひび割れ抵抗性	合格	ひび割れないこと。
付着標準状態	1.2	0.7N/mm以上
浸水後	1.1	0.5N/mm以上
温冷繰返し	合格	試験体の表面に、ひび割れ、はがれ及び膨れがなく、かつ、著しい変色及び光沢低下がないこと。
透水性B法	0	0.5ml以下
耐衝撃性	合格	ひび割れ、はがれ及び著しい変形がないこと。
耐候性A法	合格	ひび割れ及びはがれがなく、変色の程度がグレースケール3号以上であること。
伸び	20℃時	200 伸び率 120%以上
	-10℃時	39 伸び率 20%以上
	浸水後	125 伸び率 100%以上
	加熱後	145 伸び率 100%以上
伸び時の劣化	合格	はく離、反り及びねじれがなく、主材に破断及びひび割れないこと。

この試験結果は水性弾性セラミシリコンを上塗材として用いた時のものです。

標準施工仕様 (新築)

吹放し・凸部処理仕上げ

(20℃、65%RH)

工程	材 料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備 考	
					工程内	工程間	最終養生		
下地調整	●下地はよく乾燥させ、含水率10%以下・pH10以下として下さい。 ●付着物は完全に除去し、傷・不陸・目違いなどは補修調整して下さい。							—	
1	※1, 2, 3 下塗り レナフレンド下塗材 (SK水性弾性シーラー〈クリアー〉) 清	水	100 0.10~0.13 0~5	1	—	2 以上	—	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量: 600~1000ml/分 パターン幅: 25~30cm	
2	主材塗り(1) (基層塗り) レナフレンド主材 清	水	100 1.5~1.8 3~5	1	—	3 以上	—	リシンガン 口径: 4~6mm 圧力: 490~686kPa (5~7kgf/cm ²)	
3	※4 主材塗り(2) (模様塗り) レナフレンド主材 清	水	100 0.7~0.9 0~2	1	—	吹放し 18以上 45分以内	—	タイルガン 口径: 6.5~8mm 圧力: 392~588kPa (4~6kgf/cm ²)	
4	※5 凸部処理 プラスチックローラーに塗料用シンナーA を付けて凸部を押さえる。	—	—	—	—	18 以上	—	—	
5	※6, 7, 8, 9, 10 上塗り レナフレンド上塗材 (SK水性ELコート) 清	水	100 0.30~0.35 0~20	2	—	2 以上	—	24 以上	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量: 600~1000ml/分 パターン幅: 25~30cm
5	※6, 7, 8, 9, 10 上塗り レナフレンド上塗材 (水性弾性セラミシリコン) 清	水	100 0.30~0.35 0~20	2	—	2 以上	—	24 以上	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量: 600~1000ml/分 パターン幅: 25~30cm

ゆず肌状ローラー仕上げ

(20℃、65%RH)

2	主材塗り レナフレンドローラー用主材 清	水	100 2.0~2.4 2~3	2	16 以上	18 以上	—	M-9ローラー (マッシュローラー)
---	----------------------------	---	-----------------------	---	----------	----------	---	-----------------------

- ※1 改裝時の下塗材の所要量は0.10~0.30kg/m²となります。
- ※2 下塗りには、この他SK水性弾性シーラーホワイト(15kg石油缶)、水性ミラクシーラーエコ(15kg石油缶)もご使用いただけます。
- ※3 押出成型セメント板、GRC板、PC部材などには下塗材として★ミラクシーラー-EPO(15kgセット)をご使用下さい。
- ※4 小粒仕上げの場合、所要量は0.4~0.6kg/m²(タイルガンの口径は4~6.5mm)となります。
- ※5 灯油など、他の材料の使用は絶対に避けて下さい。
- ※6 清水での希釈率は、スプレー塗り時で「10~20」、ローラー・刷毛塗り時で「0~10」となります。
- ※7 上塗りにはこの他、水性弾性コンポウレタン(16kg石油缶)、水性弾性セラタイトSi(15.75kgセット)、水性弾性セラタイトF(15.75kgセット)もご使用いただけます。
- ※8 上塗りにはこの他、超低汚染型塗料の★グリーンマイルドウレタン弾性(16kgセット)、★グリーンマイルドシリコン弾性(16kgセット)、★グリーンマイルドフッソ弾性(16kgセット)、☆水性弾性セラタイトF(15.75kgセット)、☆水性弾性セラタイトSi(15.75kgセット)もご使用いただけます。
- ※9 上塗材の希釈率は、色相及び施工時の気温により変化することがあります。ご了承下さい。
- ※10 寒冷地向けに強溶剤タイプの下塗材、上塗材を使用することもできます。詳しくは最寄りの各営業所までお問い合わせ下さい。
- ※11 公共建築工事標準仕様(新築・改裝)につきましては、最寄りの営業所へお問い合わせ下さい。

- 注) 1. 下塗りにSK水性弾性シーラー、水性ミラクシーラーエコをご使用の場合、上塗りには必ず、SK水性ELコート、グリーンマイルドウレタン弾性、グリーンマイルドシリコン弾性、グリーンマイルドフッソ弾性などの水性又は、弱溶剤の仕上材をご使用下さい。
2. 溶剤形の製品(★)については、左記の注意が必要です。

JIS A 6909 複層仕上塗材 組み合わせ一覧表

種別	製品名	下塗材	上塗材			
			アクリル系	ウレタン系	シリコン系	フッ素系
防水形複層塗材E	レナフレンド レナフレンドローラー用	水性ミラクシーラーエコ SK水性弾性シーラー ※ミラクシーラー-EPO ※EXシーラー ※ミラクシーラー-ES	SK水性ELコート	水性弾性コンポウレタン ※クリーンマイルドウレタン弾性	水性弾性セラミシリコン 水性弾性セラタイトSi ※クリーンマイルドシリコン弾性	水性弾性セラタイトF ※クリーンマイルドフッ素弾性
	レナエクセレント レナエクセレントローラー用	水性ミラクシーラーエコ SK水性弾性シーラー ※EXシーラー ※ミラクシーラー-ES	SK水性ELコート	水性弾性コンポウレタン ※クリーンマイルドウレタン弾性	水性弾性セラミシリコン 水性弾性セラタイトSi ※クリーンマイルドシリコン弾性	水性弾性セラタイトF ※クリーンマイルドフッ素弾性
	ダンツークート ダンツークートローラー用	ダンツークーシーラー ※ツークーシーラー-EPO ※ダンツークート下塗材	—	水性ダンツークート上塗材	水性ダンツークート上塗材Si	—
	ダンツークリーン ダンツークリーンローラー用	ダンツークーシーラー ※ツークーシーラー-EPO ※ダンツークリーン下塗材	—	※ダンツークリーン上塗材	—	—
防水形複層塗材RE	ダンツークキャスト ダンツークキャストローラー用	ダンツークーシーラー ※ツークーシーラー-S ※ツークーシーラー-EPO	—	ダンツークキャスト上塗材	ダンツークキャスト上塗材Si	—

注) 上塗材は艶有りが対象となります(半艶・3分艶・艶消し等のJIS表示は不可)。
※印は溶剤形です。無印は水性形です。

注 意 点

製品取り扱い、それぞれの製品安全データシート(MSDS)に従って下さい。本パンフレットでは、一般的な施工仕様を記載しています。下地の種類及び状況、用途などにより仕様が変わることがあります。詳しくは、最寄りの各営業所にお問い合わせいただくか、それぞれの施工要領書を別途ご参照下さい。

- ALCパネル、多孔質下地、粗面、その他下地に問題がある場合には、カケンファイラー(粉体/20kg 袋、混和液/10kg 石油缶)、またはミラクフアンドKC-1000(粉体/20kg 袋、混和液/5kg ポリ容器)などで下地調整を行って下さい。なお、改装工事には、ミラクフアンド各種をご使用下さい。
- 下地がコンクリートの場合には、付着物などを除去し、下地をよく乾燥させ、含水率10%以下・pH10 以下として下さい。
- 吸い込みが大きい下地、部分的に下地調整を行った面が他の面と比べて著しい吸い込み差を生じる下地、改装下地、並びに下地がけい酸カルシウム板、スレート板などの場合には、適切な下塗材の選択が必要です。詳しくは最寄りの各営業所にお問い合わせ下さい。
- 二液反応硬化タイプの材料は、主剤と硬化剤を指定の比率で調合し、電動ミキサーで攪拌混合してご使用下さい。特に小分けでご使用の場合は、計量器にて計量を行って下さい。混合後の材料は、缶に表示の可使用時間以内に使い切ってください。また、可使用時間は温度・希釈などの条件によって変わりますので、混合後はなるべく早く使い切ってください。
- 材料の希釈には、指定の希釈剤をご使用下さい。希釈の方法が適切でないと粘性に異状をきたし、塗装時にたれ、透け、ミスト発生などの問題を生じる場合があります。吹付時の空気圧の調整とともに十分ご注意ください。
- 既調合タイプの材料を希釈したり、他の材料と混合したりすると、性能低下につながりますので、絶対に避けて下さい。
- 各標準施工仕様に記載の所要量及び間隔時間を守って施工して下さい。特に凸部処理工程は、規定時間以内に行わないと、きれいな仕上がりを得られないなど問題を生じる場合がありますので、ご注意ください。
- 上塗材は、むらなく均一に塗付して下さい。特に凹部に塗り残しができないよう、ご注意ください。
- 上塗材の希釈率は試験塗りなどにより決定し、それ以降は同一の希釈率で使用して下さい。なお、希釈率は色相及び施工時の気温により変化することがあります。ご了承下さい。
- 吹付用のコンプレッサーは、2馬力以上のものご使用下さい。
- 改装工事に溶剤形の材料をご使用の場合、溶剤などの影響により旧塗膜を侵し、膨れ・ちぢみなどの異状が発生することがあります。試し塗りにより確認の上、本施工に入って下さい。
- 間隙が広いなど、大きな動きが予想されるシーリング打設部への塗装は、塗膜がひび割れる可能性がありますので、なるべく避けて下さい。
- シーリング材の上へ施工する場合、シーリング材の種類、材齢により、塗膜が密着しないことや汚染することがあります。詳しくは最寄りの営業所までお問い合わせ下さい。
- 陶磁器タイル洗浄用の酸が塗装面に付着すると、変色や溶解などの異常を生じることがありますので、これを防止するため、予め塗装面の養生を行って下さい。
- 冬期または多湿な場合には、乾燥が遅くなります。通風をよくし、十分に乾燥養生を行って下さい。特に温度5℃以下・湿度85%以上の時は、原則的に施工を避けて下さい。施工が要求される場合は、採暖及び採暖のための養生により、雰囲気温度・被塗面温度を5℃以上にして下さい。
- JIS A 6909 建築用仕上塗材複層仕上塗材では、下塗材・主材・上塗材に同一メーカーの指定された製品を使用しないと、JIS 規格品として認められません。必ず指定の材料をご使用下さい。
- 軽量モルタル、ALCパネル、高断熱型窓業系サイディング及び発泡ウレタンなどを用いた高断熱型外壁に塗装する場合は、蓄熱されたり、水の影響や下地の状態、塗装時の環境など、いくつかの条件が重なることで、パネルの変形や塗膜のふくれ、はがれなどを生じることがあります。ご採用に当たっては、最寄りの各営業所にご相談下さい。
- 強風時、または降雨、降雪のおそれがある場合の施工は原則的に避けて下さい。
- 塗膜の膨れ、はく離、白化、しみの発生につながる場合がありますので、著しく結露が生じるような場所での使用は避けて下さい。
- 既存塗膜のはく離は、既存のパターンに合うように既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行って下さい。
- 防藻、防かび性は繁殖の抑制の効果を示すものです。すでにかびや藻が付着している場合は、これらを除去するなどの適切な下地処理をしてから塗装して下さい。
- かび、藻が付着している場合は、「SKKカビ除去剤#5」にて拭き取って下さい。
- 材料は規定の範囲内の希釈を厳守し、電動ミキサーなどを用いて内容物が均一になるよう十分に攪拌して下さい。
- 塗り重ね時間は環境(温度、湿度、換気、風通しやすさ)や膜厚によって変わります。
- 補修塗りの際、仕上がり肌の違いにより、若干の色相差を生じる場合がありますので、部分的に仕上がり性を確認した上で希釈量等を決定して下さい。
- 刷毛で補修塗りをを行う際、スプレー塗りやローラー塗りとは仕上がり肌の違いによる若干の色相差を生じることがあります。
- 艶調整品(艶有り以外の半艶、3分艶、艶消しなど)は、被塗物の形状、膜厚や色目、塗り回数、希釈率の差などにより、実際のつやと若干異なって見える場合があります。また、刷毛・ローラー塗装時に塗継ぎ箇所などで艶ムラを生じやすい傾向があります。試し塗りの上、本施工に入って下さい。
- 濃色や原色に近い色彩は、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類などが触れる可能性のある部位への施工は避けて下さい。
- 上塗りにイエロー、レッド、ブルー、グリーン系など彩度の高い色目を塗装する場合は、隠ぺい性を高めるため、予め隠ぺい性の良い共色を塗装して下さい。
- 最終養生の時間内に、降雨、結露などがあれば、塗膜の膨れ、はく離、白化、しみの発生につながる場合がありますので、塗装を避けるか強制換気などで表面の水分を除去して下さい。なお、シミが発生した場合は、乾燥後に水拭きなどで除去して下さい。
- 上記の標準塗坪は一般的なものであり、下地の状態や環境などによる所要量の増減に応じて変わることがあります。ご了承下さい。

危険情報と安全対策

製品取り扱い、それぞれの製品安全データシート (MSDS) に従って下さい。すべての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないで下さい。

各種共通

[応急処置]

- 蒸気を吸入した場合は、空気の清浄な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させて下さい。その後、医師の診断を受けて下さい。
- 誤飲した場合は、直ちに医師の診断を受け、無理に吐かせないで下さい。
- 眼に入った場合は、清浄な水で充分洗い流し、痛みが残る場合は医師の診断を受けて下さい。
- 皮膚に付着した場合は、付着した衣服等は直ちに脱ぎ、清浄な水で皮膚を洗って下さい。炎症や刺激がある場合は医師の診断を受けて下さい。
- 漏出した場合は、漏出物を速やかに回収して下さい。

[廃棄]

- 廃材、容器、養生材、ウエス等は、自分で破棄・焼却せず、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処分を委託して下さい。
- 容器に中身を残したまま廃棄したり、火気を当てたりしないで下さい。
- 有害物質を含みますので、排水路・下水・河川への排出及び地下浸透をしないで下さい。

[保管及び取り扱い]

- 容器を密封し、凍結・直射日光を避け、5～40℃の乾燥した換気のよい場所、及び部外者や子供が出入りできない場所に一定の管理の出来る場所を定め、施錠して保管して下さい。
- 缶の取手は手さげ専用です。ロープやフックで吊り下げると外れることがあり、危険です。(製品の種類によって異なる注意事項は、別途、種類別に記載してありますので、参照して下さい。)

[安全衛生]

- 製品の種類によって異なります。別途、種類別に記載してありますので、参照して下さい。
- 取り扱い後は、洗顔、手洗い及びうがいを充分に行ってください。

溶剤形塗料

溶剤形塗料は特に下記の点にご注意下さい。

1. 引火性可燃物ですので、火気厳禁です。
2. 有機溶剤中毒や皮膚障害を起こすおそれがあるため、取り扱い時は保護具を着用して下さい。
3. 業務用「塗料」ですので、本来の用途以外には使用しないで下さい。

[保管及び取り扱い]

- 保管場所及び取り扱い場所とその周辺は、塗装中乾燥中ともに熱／火花／裸火／高温体のような着火源を遠ざけ火気厳禁として下さい。特に乾燥中は蒸発の面積が広がるため、短時間に多量の引火性の高い蒸気が発生しますので、注意して下さい。

- 合成樹脂などの電気絶縁性の床での保管や取り扱いをしないで下さい。また、導電靴や帯電防止の衣服を着用して下さい。
- ご使用の場合、使用機器（電気機器／換気装置／照明機器／工具等）は防爆型及び導電型のもを使用し、アースを取って下さい。
- 消火には粉末、二酸化炭素、泡消火器または水を噴霧して下さい。棒状の水を直射すると飛散して危険です。

[安全衛生]

- ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読み下さい。特に、荷姿欄に★印のついている製品は溶剤形で引火性可燃物の為、火気厳禁です。
- 揮発性の溶剤を含むため、皮膚に触れたり蒸気を吸入すると、皮膚障害や中毒を起こすおそれがありますから取り扱いには以下の注意事項を守って下さい。
 - ① 取り扱い場所には局所排気装置を設けて下さい。
 - ② 容器から出し入れする時は、こぼれないようにして下さい。
 - ③ 取り扱い中は皮膚に触れたり、蒸気やミストの吸入を避けて下さい。必要に応じ、防塵マスク、保護メガネ、不透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにして下さい。
 - ④ 作業衣などに付着した場合は、その汚れをよく落としてください。
- 施工においては、溶剤成分が室内に流入しないように充分注意して下さい。

硬化剤

硬化剤は、特に下記の点にご注意下さい。

1. 引火性可燃物ですので、火気厳禁です。
2. 有機溶剤中毒や皮膚障害を起こすおそれがあるため、取り扱い時は保護具を着用して下さい。
3. 業務用「塗料」ですので、本来の用途以外には使用しないで下さい。

[保管及び取り扱い]

- 保管場所及び取り扱い場所とその周辺は、塗装中乾燥中ともに熱／火花／裸火／高温体のような着火源を遠ざけ火気厳禁として下さい。特に乾燥中は蒸発の面積が広がるため、短時間に多量の引火性の高い蒸気が発生しますので、注意して下さい。
- 合成樹脂などの電気絶縁性の床での保管や取り扱いをしないで下さい。また、導電靴や帯電防止の衣服を着用して下さい。
- ご使用の場合、使用機器（電気機器／換気装置／照明機器／工具等）は防爆型及び導電型のもを使用し、アースを取って下さい。
- 消火には粉末、二酸化炭素、泡消火器または水を噴霧して下さい。棒状の水を直射すると飛散して危険です。

[安全衛生]

- ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読み下さい。特に、荷姿欄に★印のついている製品は溶剤形で引火性可燃物の為、火気厳禁です。
- 揮発性の溶剤を含むため、皮膚に触れたり蒸気を吸入すると、皮膚障害や中毒を起こすおそれがありますから取り扱いには以下の注意事項を守って下さい。
 - ①取り扱い場所には局所排気装置を設けて下さい。
 - ②容器から出し入れする時は、こぼれないようにして下さい。
 - ③取り扱い中には皮膚に触れたり、蒸気ミストの吸入を避けて下さい。必要に応じ、防毒マスクまたは送気マスク、保護メガネ、不浸透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにして下さい。
 - ④皮膚に付着した場合は、速やかに大量の水で洗って下さい。また、大量の蒸気を吸入した場合は、速やかに医師の診断を受けて下さい。
 - ⑤作業衣などに付着した場合は、その汚れをよく落とすして下さい。
 - ⑥液がこぼれた場合は、中和剤を散布した後で処理して下さい。
- 施工においては、溶剤成分が、室内に流入しないように充分注意して下さい。

希釈用溶剤

希釈用溶剤は、特に下記の点にご注意下さい。

1. 引火性可燃物ですので、火気厳禁です。
2. 有機溶剤中毒や皮膚障害を起こすおそれがあるため、取り扱い時は保護具を着用して下さい。
3. 業務用「塗料」ですので、本来の用途以外には使用しないで下さい。

[保管及び取り扱い]

- 保管場所及び取り扱い場所とその周辺は、塗装中乾燥中ともに熱／火花／裸火／高温体のような着火源を遠ざけ火気厳禁として下さい。特に乾燥中は蒸発の面積が広がるため、短時間に多量の引火性の高い蒸気が発生しますので、注意して下さい。
- 合成樹脂などの電気絶縁性の床での保管や取り扱いをしないで下さい。また、導電靴や帯電防止の衣服を着用して下さい。
- ご使用の場合、使用機器（電気機器／換気装置／照明機器／工具等）は防爆型及び導電型のもを使用し、アースを取って下さい。
- 消火には粉末、二酸化炭素、泡消火器または水を噴霧して下さい。棒状の水を直射すると飛散して危険です。

[安全衛生]

- ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読み下さい。特に、荷姿欄に★印のついている製品は溶剤形で引火性可燃物の為、火気厳禁です。

- 揮発性の溶剤を含むため、皮膚に触れたり蒸気を吸入すると、皮膚障害や中毒を起こすおそれがありますから取り扱いには以下の注意事項を守って下さい。

- ①取り扱い場所には局所排気装置を設けて下さい。
 - ②取り扱い中には皮膚に触れたり、蒸気ミストの吸入を避けて下さい。必要に応じ、防毒マスクまたは送気マスク、保護メガネ、不浸透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにして下さい。
 - ③容器から出し入れする時は、こぼれないようにして下さい。
- 施工においては、溶剤成分が室内に流入しないように充分注意して下さい。

水性塗料

[安全衛生]

- ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読み下さい。
- 水性塗料（荷姿に★印のついている製品）の取り扱いには以下の注意事項を守って下さい。
 - ①取り扱い場所は換気をして下さい。
 - ②取り扱い中には皮膚に触れたり、蒸気ミストの吸入を避けて下さい。必要に応じ、防毒マスクまたは送気マスク、保護メガネ、不浸透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにして下さい。